

# なぜ英語が話せないの

<27>

公立高校入試にヒアリング問題 十八道県(五九・六〇)がヒアリングを出していない県は、九州で、ヒアリングを出題しているのは福岡、熊本のみだ。大分、福岡県が実施に踏み切らない県は、なんと十七年前の四十一、理由として、田中壮一郎・県教育長は、全国的にみても一、

生じる不公平問題を挙げ「今のところ導入の考えはない」と、消極的な姿勢を示している。

意行指導一課長は、受験生間に

例えは、試験場で前の席の受験生に比べ、後方座席組は不利にならないか。飛行機や騒音に悩まされる試験場と、静かな試験場とは、明らかに不公平があり、同一条件でのテストでなくなる。また、受験生が通う中学校は、上記設備が整った学校と、そうでない学校(県下の三百三十二中学のうち、約九〇割が上記設備を持たない)があり、公平な試験とは言えない、と指摘する。

しかし、田中課長は「予想される各問題についての具体的な調査や、先進県からの事情聴取、予算面の試算などはしていない」と述べ、県教育庁のやる気のなさを露呈した形。「十分、検討したうえでの結論ならどうか、観念的な意見だけで英語教育の前進を阻むべきではない」と、現場教師からの批判は強。

県下高校入試にヒアリング問題が導入されるのはいつ?

公立高校入試にヒアリング問題が導入されるのはいつ?

既に実施に踏み切った県では「ヒアリングをめぐる諸問題は、今への取り越し苦労だった(佐賀県)」「ヒアリング導入によるトラブルは一度もなかった(長

三千円はかかるし設備を全部の中学が備えているわけではなく「簡単なカセットテープでも十分代用できる(大分県)」としている。騒音問題にしても「二つの高校に受験する生徒たちは、ほぼ同じ環境で試験に臨むため、不公平はない」(佐賀県)。

## やる気ない福岡県

### 公立高校入試のヒアリング導入

福岡県は、昨年から公立高校の英語教師の採用試験に従来のヒアリングテストに加え、全国でも初めてのディベートンク(討論)を出題、注目を集めた。課題をテーマ一人五分程度のスピーチをさせるほか、八人ずつのグループに分けて討議させ、会話を採点する。この方法だと、受験生は読み、書き、文法だけでなく、実用会話力の訓練も必要になり、質の高い教師が得られると好評だ。

県教育庁の論法だと、「この英断も上記設備の整った大学と、そうでない大学では不公平があり、教員採用試験にヒアリングやディベートンクは出題できない」とする。田中課長は「再考を促す声は強い」。

崎県と証明。鹿児島県の担当者は「要するに慎重な配慮とやる気さえあれば、導入できる」と、強調している。

実施県では、一校三たり二

再考を促す声は強い。

